

部局名	上下水道局	所属名	維持管理課	所属長名	鶴丸 良造	電 話	483-6587
-----	-------	-----	-------	------	-------	-----	----------

1. 事務事業の位置付け・概要（P L A N）

コード	9961		事務事業名称	災害時応急給水用機材整備事業(水道事業_資本的支出)						短縮コード	経常	9961	臨時	
予算区分	会計	64	水道事業会計_資本的支出	款	01	資本的支出	項	01	建設改良費	目	04	固定資産購入費		
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他				根拠法令等		水道法，災害対策基本法に基づく八千代市地域防災計画							
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）														
阪神淡路大震災をきっかけとして，災害時の応急給水活動に備えるために応急給水機材を備蓄し，併せて迅速な給水活動が行えるような体制を整える。														
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測				総合計画の施策体系	5本の柱（章）	04	快適生活空間都市をめざして							
阪神淡路大震災や新潟中越地震，新潟県中越沖地震，東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）等の近年頻発する災害に対し，住民の防災意識が向上しており，そのニーズ応えるべく，災害用応急給水資材の備品拡大を目指している。					大項目（節）	04	水道							
					中 項 目	01	水道							
					小項目（施策）	03	災害・環境対策の強化							
					細 項 目	03	緊急時対策の推進							
					実施計画の計画事業									
計画事業の位置付けの有無				☐	計画事業期間		～			計画事業費		千円		

2. 事務事業の目的・指標・実績（D O）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	災害時における応急給水活動。								
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成22年度に実際に行ったこと： 臨時用給水栓 1 0 本を購入し，備蓄した。								
	※平成23年度に計画していること： 臨時用給水栓 1 0 本を購入し，備蓄する。								
意図 （何を狙っているのか）	災害発生時に避難所等で使用する応急給水機材の備蓄。								
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外								
区 分				単位	2 1 年度	2 2 年度		2 3 年度	
					実績	計画	実績	計画	
対象指標	指標 1	災害発生件数	件	0	0	1	0		
	指標 2	応急給水訓練回数	回	1	2	2	2		
	指標 3								
活動指標	指標 1	給水タンクの購入	台	2	0	0	0		
	指標 2	臨時用給水栓	本	10	10	10	10		
	指標 3								
成果指標	指標 1	給水タンクの備蓄	台	18	18	18	18		
	指標 2	臨時用給水栓	本	71	81	81	91		
	指標 3								
上位成果指標	指標 1								
	指標 2								
	指標 3								

コード	9961	事務事業名称	災害時応急給水用機材整備事業(水道事業_資本的支出)				所属名	維持管理課
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☒ 改革・改善して継続			災害時応急給水用機材を小・中学校の防災倉庫に備蓄し、災害用井戸との連結により、災害時に学校が応急給水場となることを子どもたちに知ってもらえるような活用方法を学校と連携して実施していきたい。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☒ その他							
☐ 廃止・休止								
☐ 事業完了								
☐ 現状のまま継続								
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			学校の災害用井戸の部分改良や水質管理、応急給水用資機材の購入費用など1 次的なコストの増加はあるものの、学校や地域の安心・安全に繋がる事業である。	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☐	☐	☒		
			不 変	☐	☐	☐		
低 下	☐		☐	☐				

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
現在，上下水道局で保有する給水タンクの数では，市内にある全ての避難所で応急給水活動を行うことは難しいのではないかなどの意見が寄せられた。また，防災倉庫に 応急給水用機材の備蓄と学校での有効活用を求められている。									

所属長コメント	災害時応急給水用機材を小・中学校の防災倉庫に備蓄するとともに、応急給水用機材を災害用井戸に連結し、災害時には学校が応急給水場となることを子供たちに理解してもらえよう学校と連携を図っていきたい。								
評価調整委員会評価	☒ 改革改善して継続			東日本大震災を検証し，この事業の改革改善を検討していくこと。また学校防災井戸の活用については，費用対効果を検証したうえで，学校との連携を図り進めていくこと。					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☐ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
☒ その他									
☐ 廃止・休止									
☐ 事業完了									
☐ 現状のまま継続									